

発足2年、女性選手も活躍

アユターレ初の全道制覇

次の目標は社会人大会出場



女性選手も試合で躍動、勝利に貢献した青色ユニホームの「アユターレ」

【札幌】精神病疾患の患者・障害者とそれを支えるサポーターによる「十勝精神障害者スポーツクラブ アユターレ」(酒井一浩代表)が18日、札幌のフットサルスタジアム蹴(しゅく)で開かれた全道大会「第2回北海道チャンピオンズカップ」(石金病院主催、コンサドーレ札幌など

後援)で初優勝を飾った。アユターレは十勝の社会人選手らの支援を得て練習を重ねて選手13人が遠征、全5試合を完封勝利し、女性選手も2得点で勝利に貢献した。メンバーは病気を克服しながら発足2年でつかんだ栄冠に歓喜した。

チームは一昨年6月に帯広・大江病院体育館で練習を始めた。今大会には統合失調症、うつ病、アルコール依存症、発達障害などの20代から50代の患者・障害者選手が臨み、体調の自己管理に努めて本番を迎えた。

道内のチームは昨年より増えて今回は札幌、名寄と帯広から計8チーム・80人が出場。昨年の覇者・ハローライム(札幌)などいずれも力をつけて試合に登場した。アユターレは予選リーグ初戦から6-0と圧勝、女性選手の左藤好美さん(芽室町)が2得

点を挙げて勢いをつけた。予選の残り2戦も1-0、3-0で勝利してグループ1位で通過。準決勝のエスポワール(札幌・石金病院)戦も2-0で制し、決勝戦は、このリカボール(札幌・こころのリカバリーセンター)との激闘で前半終了間際に入れた1点を守り切って1-0で勝利した。



試合中は、コーチを務めた頑張り「の成果」と喜び、酒井代表は「言うことなし。選手の人材に恵まれ、一緒に練習してくれた社会人・学生・外国人のスタッフにも恵まれた」と語る。活躍した佐藤選手は「信じられない。コーチのおかげ。女性選手ももっと増えてほしい」と歓喜した。チームの次の目標は十勝の社会人大会への出場だ。

社会人サッカーチーム帯広蹴球団のゴールキーパー匂坂幸輝さん(とから共同作業所、精神保健福祉士)が声を出して選手の位置を修正、守備のシステムが機能した。月8回の練習で指導してきた匂坂さんは「みんなの

(横田光俊)